

2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 7 日作成)

小委員会名	建築生産自動化小委員会	主 査 名：前田 純一郎 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会(建築生産運営委員会)	委員長名：田中 享二 主 査 名：三根 直人
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築生産への次世代ロボット技術の活用に関する調査研究を行う。 ・ 第 5 回ワークショップの企画・開催。(2007 年 1 月 30 日) ・ 国際建設ロボットシンポジウム(I S A R C) 2006 の企画・開催(土木学会、日本ロボット学会など 6 学協会と共催：2006 年 10 月 3～5 日開催) 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無 新井一彦(マネジメントシステム評価センター)、井上文宏(大林組)、岩波光一(戸田建設)、 椎名國雄(東海大学)、玉木欽也(青山学院大学)、蔡成浩(鹿島)、寺井達夫(千葉工業大学)、 星野春夫(竹中工務店)、前田純一郎(清水建設)、眞方山美穂(建築研究所)、三浦延恭 (国士館大学)、室英治(芝浦工業大学)、森正人(大成建設)、吉武亮二(フジタ) 14 名 五十音順	
設置 WG (WG 名：目的)	WG 名称：次世代ロボット活用技術に関する WG 目 的：次世代ロボット技術の建築生産への活用に関する調査研究を行う。	
2006 年度予算	80,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回(年度内計画を含む) (WG は、11 回開催)
刊行物	1 .
講習会	1 . 参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1 . 第 5 回ワークショップ 参加者数 31 名 「建築生産自動化・ロボット化 20 年の歩みと今後の展望」予稿集 2 . 参加者数 名
大会研究集会	1 . 参加者数 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	1 .
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1 . ワーキンググループにおいては、前年度にまとめた次世代ロボット技術調査を深堀すべく、我国の最先端のロボットを研究している主に大学の研究室を訪問し、シーズ技術の動向、建築生産への応用展開の可能性について調査活動を続行している。次年度中には、新たな報告書として纏める予定である。 2 . 「建築生産自動化・ロボット化 20 年の歩みと今後の展望」と題して、ワークショップを開催した。ゼネコン 4 社、及び、専門工事業、建設機械メーカー、建設労務研究の立場から、計 7 名のパネラーの発表を踏まえて討議を行った。昨今、高齢化に加えて、構造的な技能工不足が進む中で、バブル崩壊後沈滞していた自動化・ロボット化の研究開発をどのように活性化してゆくのか、その開発体制のあり方、実現の条件、要望事項、さらに重点的に取り組むべき分野などに関して、フロアも交えて活発な討議が行われ、充実したものであったと評価できる。 3 . 国際建設ロボットシンポジウムは、共催の他学協会と連携して開催した。
委員会活動の問題点・課題	1 . 2 .

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。